

## 令和5年度第3回逗子市自殺対策計画推進懇話会 議事録

日 時 令和5年12月19日(火) 13時30分から 15時30分  
場 所 逗子市保健センター3階会議室  
出席者 山田朋樹(アドバイザー)、小保内洋子(アドバイザー)  
市川悟、佐々野聡、小野真歩、漆垣かなえ、中嶋富美子  
傍 聴 なし  
事務局 廣末次長、浅野係長、青山副主幹、竹内、福本、宮本

### 議事概要

#### 1 開会

資料確認を行った。

#### 2 議題

(1) 逗子市自殺対策計画(第2次計画)の素案について

<事務局より>

資料1、資料2の全体の変更点について。

- ・西暦等の記載は西暦(和暦)に統一した。
- ・P3~P18の図やグラフは鮮明化、表記の修正を行い、視認性を改善した。

#### ①第1章 計画の策定にあたって

<事務局より>

- ・第1章について計画素案を用いて構成と変更点を説明。前回の計画案では、「1 計画策定の背景」「2 計画改定の趣旨」とあったが、重複している点が多いため、P3の「1 計画策定の趣旨」としてまとめた。次のP4の自殺者数の推移は、総数だけでなく男女別、ポイントとなる時点の自殺者数を入れることで、この20年間の国の自殺者数の推移を分かりやすくした。
- ・P9「計画の位置づけ」については、自殺対策は、市全体の様々な事業と広くつながりがあるため、総合計画の5本の柱それぞれと連動するよう図を修正した。
- ・P10の「5 計画の推進体制と進行管理」については、(1)計画の進行管理については部課長会議においても、自殺対策について情報共有を図っているため、「ウ その他」として位置づけた。

#### 【質疑応答】

<事務局より>

- ・以上第1章の変更点について、ご意見ご質問があるか。

<メンバーより>

- ・意見なし。

## ②第2章 逗子市の自殺の実態

### <事務局より>

- ・P13の自殺者数と自殺死亡率の推移の表については前回の懇話会でのご指摘を元に、市と県の変化が分かりやすいよう表を組み替えた。グラフについても10年間の自殺死亡率の変化、県と市の比較ができるよう修正した。
- ・P17「6年齢別の死因」については、自殺の死因が3位以内に入っている年代だけに修正した。次のP18の神奈川県の上殺者数は最新の数に変更した。

### 【質疑応答】

### <事務局より>

- ・以上第2章の変更点について、ご意見ご質問があるか。

### <メンバーより>

- ・意見なし。

## ③第3章 これまでの取り組み

### <事務局より>

- ・資料P21の中段の市民向けゲートキーパー養成講座の講師の名前に間違いがあったため訂正する。正しくは、長見英和氏でなく英知氏である。  
第3章では現計画の期間に当課で取り組んだ事業と広域で取り組んだ実績を掲載していたが、前回の懇話会でご意見をいただき、第5章にある逗子市の4本の柱に沿ってまとめた。
- ・「(1)の生きることを支える人材育成及び自殺対策に関わる人材の資質の向上を図る」については、ゲートキーパー養成を対象ごと(職員、市内団体、市民)に整理した。
- ・「(2)市民への啓発周知」については、表のように活動の項目ごとに分けて表示した。  
表の下に広域での取り組みの「生きるを支える鎌倉・逗子・葉山実行委員会」の取り組みを記載した。
- ・「(3)地域・庁内組織間における連携の強化」については、今年度から開始した逗子市自殺対策計画推進担当者会議も掲載する。

### 【質疑応答】

### <事務局より>

- ・以上第3章の変更点について、ご意見ご質問があるか。

### <メンバーより>

- ・市民への啓発について、広報や相談窓口の周知、情報提供など実施していることをこれまでの取り組みに記載をしたほうがよいのではないか。

### <事務局より>

- ・ご指摘の通り、修正する。

<アドバイザーより>

- ・（１）と（３）で講師名ありとなしで表記が異なるのはなぜか？

<事務局より>

- ・職員向け研修では複数名の講師に依頼したため全員の名前が載せられず、外部講師と記載したが、市民向け研修では過去２回とも同じ講師に依頼したため講師名を記載した。  
ご指摘の通り、表記は統一する。

<アドバイザーより>

- ・P28 は前回の表記から変更点があるのか？

<事務局より>

- ・自殺死亡率が「県内でも低い」という文言があったが、県全体の平均と比較すると高い状況であったため、該当の文章を削除した。

<アドバイザーより>

- ・自殺対策は統計だけで傾向を述べることは難しい。できることは何でもやること、地域づくりが大切になるため、このように特定の対象に絞らずに働きかけを行っていく必要がある。自殺対策計画において適切な文章だと考える。

#### ④第４章 取組みの方向性

<事務局より>

- ・「逗子市の自殺率は神奈川県内でも低いですが」という一文については、過去５年間の自殺死亡率の平均をみると神奈川県全体と比較して若干高くなっているため、削除した。
- ・統計からみた逗子市の特徴は４０～５０歳代、女性、若者、高齢者の割合が高いと示されているが、市の自殺統計は、その分母となる人口が少なく、少しの人数の変化でも統計上大きな変化となるため、特定の対象に限らず、「誰も自殺に追い込まれない地域づくり」として取り組みたいと考えている。

#### 【質疑応答】

<事務局より>

- ・以上第４章の変更点について、ご意見ご質問があるか。

<メンバーより>

- ・P38 の表記は正しくは生活困窮者自立相談支援事業であるため修正が必要。

<事務局より>

- ・ご指摘の通り、修正する。

#### ⑤第５章 自殺対策におけるこれからの取組み

<事務局より>

- ・P33（２）市民への普及・啓発についての精神保健福祉講演会は、事業が終了している・・・ため、削除した。
- ・P35（３）地域・庁内組織間における連携の強化について、前回、記載漏れしていた「自殺対策計画推進懇話会」を追加した。
- ・P36（４）生きることの促進要因への支援にて、介護課の事業の「福祉バス運行事業」については、事業視点が違うと内部での意見があり、削除した。
- ・P45 のケースワーク業務については、障がい福祉課が担当と記載していたが、ケースワークは障がい福祉課のみならず、ケース対応していく部署すべてに行っている業務と考えられるため「高齢介護課、社会福祉課、国保健康課、子育て支援課」も追記した。
- ・P47 自死遺族支援については、市単独で事業開催するのは難しい事業で、県が開催する「自死遺族の集まり」「自死遺族相談」の周知を行っている。この自死遺族支援により自死遺族の心の不調、つらさが和らぎ、自死遺族がこれから生きることの促進要因になりえると考え、（４）「いきることの促進要因への支援」に追加した。
- ・同 P47「妊娠届出に関する事務、妊婦訪問、妊産婦健康診断」の事業の自殺対策の視点に「▼妊産婦への支援充実は、新しい自殺総合対策大綱でも重点項目の一つとして明記されている。」を追記した。主な対象者について、高齢者の欄に「○」がついているが、削除する。
- ・P49 離乳食教室については、皆様に配った計画案には掲載しているが、健康教室の中の詳細事業であるため、整理し削除する。

#### 【質疑応答】

<事務局より>

- ・以上第５章の変更点について、ご意見ご質問があるか。

<メンバーより>

- ・意見なし。

### ⑥第６章 これからの成果指標

P65「１ 自殺対策全体の成果指標」だが、本来の目標は、基本理念の「誰も自殺者を出さない」である。それを目指すためにこの５年間の目標として国や県の取り組みの指標と合わせ2017年～2026年の10年間で30%減少の10.2以下とした。

#### 【質疑応答】

<事務局より>

- ・以上第６章の変更点について、ご意見ご質問があるか。

<メンバーより>

- ・意見なし。

## ⑦資料編

### <事務局より>

- ・ P76 に自殺総合対策大綱の概要版を追加した。
- ・ P80 に逗子市自殺対策計画推進担当者会議の設置及び運営に関する要領、逗子市自殺対策計画推進担当者会議担当部署を追加掲載した。

## ⑧全体を通しての意見・質問

### 【質疑応答】

### <事務局より>

- ・ 全体を通して、ご意見ご質問があるか。

### <メンバーより>

- ・ 意見なし。

## (2) 令和5年度自殺対策事業について

### <事務局より>

- ・ 資料3を用いて説明。今年度の事業のうち、いくつか実施済みのものもあるが、主だった事業を説明する。
- ・ ゲートキーパー養成研修では、職員対象にこころの健康づくり、自殺に対する理解を深め、行政職員としてゲートキーパーの役割を学ぶ予定である。  
また、自殺対策計画推進担当者会議メンバーへの研修会としても位置付けて実施する。
- ・ 3月16日(土)には、市民向けのゲートキーパー養成講座を開催する。講師はうつ専門カウンセラー、精神保健福祉士の澤登 和夫氏に依頼。この研修でアンケートを実施し、事業に協力可能な方を募る予定である。
- ・ 次に普及啓発では、いきるを支える実行委員会で、9月30日に逗子市役所の5階会議室及びオンラインにて「生き方・逝き方を考える」～一緒に人の死について考えてみませんか～というテーマで、僧侶、看護師である玉置 妙優氏にご講演いただいた。当日は、会場、オンライン合わせて84名の参加者があり、改めて「生きることを考える」機会となったようで好評であった。
- ・ 自殺予防週間、自殺対策強化月間には、未病センターでポスターを掲示する、社協・市役所で協力して啓発物品を配布するなど周知・啓発を行っている。
- ・ 今年度新に取り組んだことでは、「生きるのがつらい」や「苦しい」など、こころの健康に関する悩みの相談がラインでできる案内を記載した「ライン相談カード(県作成)」をほかの人に知られずに取れるよう庁舎内トイレに配架した。1階女性トイレでは10枚設置し10枚ともなくなっていた。

- ・地域・庁内組織間における連携としては、この「逗子市自殺対策計画推進懇話会」を今年度3回開催し、皆様からご意見をいただくことが出来た。
- ・また、自殺対策に関する各事業の調整や実施事業の情報共有を行い、庁内連携の強化を図るために、今年度新たに「逗子市自殺対策計画推進担当者会議」を開催した。

【質疑応答】

＜事務局より＞

- ・今年度の事業について、ご意見ご質問があるか。

＜アドバイザーより＞

- ・講演会では今後希望する内容についてアンケートを取っているのか。担当者会議ではどのようなことを話し合っているのか。事業を行う中で、共通する意見や傾向があれば議論が深まっていくと考える。

＜事務局より＞

- ・今後聞きたい講義の内容について具体的に質問していないが、講演の感想などの情報は収集している。

＜アドバイザーより＞

- ・講演会や事業にこういった属性の方が関心を持ち参加しているのか、こういった内容に関心があるのかを知り得る機会になる。こういった機会に得た情報を生かしていくと良いと考える。

＜事務局より＞

- ・地域の方々の意見が聞けるように今後アンケートの内容も工夫していく。
- ・担当者会議では、各課で対応する中で感じる困難さを共有し、解決のために各課で協力するための情報共有をしている。また、担当者会議の機会を自殺対策についての理解を深める機会としても活用していく方針である。

＜メンバーより＞

- ・前回の懇話会で指摘された部分がよく修正されていると感じた。
- ・自死遺族の方にも様々なケースがあり、それぞれに困難さがあると思う。自死遺族の方が抱える困難さを知ることによって、自死を思いとどまることもあるのではないか。自死遺族の方についてのアンケートなど、実際を知る機会を研修の中に取り入れていくとよいと考える。

＜アドバイザーより＞

- ・グループワーク(ケースワーク)を次年度は取り入れていくとよいと考える。例として、がん告知の場面を設定して行ったグループワークでは、役であっても実際に自分が告知されたような体験ができた。窓口対応などケースワークを行うことで、実際の対応に活かすことができると考える。

＜メンバーより＞

- ・こころの電話相談の研修ではロールプレイを行う。役だということを分かっているも

「死にたい」という言葉に衝撃を受けるが、この経験をすることで、対応を考えられるようになる。市のゲートキーパー研修でもロールプレイを取り入れていくと良いと考える。また、ゲートキーパー研修で今後協力が得られる人を募る際に、具体的な取組みが決まっているのであれば、例示すると参加者のやる気に繋がると考える。

<事務局より>

- ・意見を参考に検討していく。

### 3 その他<事務局より>

これにて本日の予定案件は全て終了となる。今年度最後になるため、一言ずつ意見をもらいたい。

<メンバーより>

- ・計画や広報から相談の場が提供されていることは分かるが、重要なのはその相談場所でのよい対応を受けられるかどうかである。また、相談の場はあってもそこに来られない方がいるため、そうした方にどのように働きかけるかを考えていく必要がある。
- ・今の社会では、さまざまな困難さを抱えて生活している人々がいる。そうした方々に働きかけていくことが大切である。
- ・逗子市の全庁的に取り組む姿勢は他市にあまりないものである。自殺対策に取り組むうえで、取組みを行う市職員自身の心のケアについても考えていくことが必要である。
- ・警察では自死された方、その家族の対応が主であり、自殺リスクのある段階の方と関わる機会は少ない。しかし、自殺者やその遺族に関わる立場として、対応については考えていかなければならないと考えている。
- ・社会福祉協議会では、相談に来られない人の対応をすることが多い。相談に来られず、ネットなどを活用される方もいるため、市のホームページなどからライン相談に繋がれるようにするなど工夫されるとよいと考える。

<アドバイザーより>

- ・計画が前回と比較して見やすくなっている。役所に来庁する人、相談に来る人よりも電話で「死にたい」と訴えてくる人が多い。電話相談だけでは対応が難しいが、対面に移行できない現状もあり、電話相談を無くしてはいけないと考えている。「死にたい」と言われた時、必ず「なぜか？」を問いかけ、苦しさを取り除くことができるように働きかけているが、対応は難しい。
- ・逗子市は行政と市民の距離が近いという強みがあると考えている。地域への働きかけにおいて、強みを生かした独自性のある取組みを行うように心掛けていただきたい。

### 4 閉会

<事務局より>

- ・本日いただいたご意見などを踏まえ、再度修正し、1月22日(月)～2月20日(火)

までパブリックコメントの実施を予定。最終的に3月末に完成予定となる。

- ・今年度最後の懇話会となるため、次長よりあいさつ。計画策定にご協力いただいたことについて謝辞を述べた。